



創設から97年、
数多くの日本代表レジェンドを輩出。
日本アイスホッケー界を牽引する
戦う集団。

1910年、東洋一と謳われた苫小牧工場が開場。1926年、工場の職員によって同好会として「王子イーグル」が結成された。全日本選手権国内最多37回の優勝を誇った王子イーグルスの歴史を受け継ぎ、2021年にクラブチーム化し「レッドイーグルス北海道」としてスタート。地域に愛され、常に強く競技者の憧れで有り続けるため、戦い続ける。

沿革

- 1926年** 同好会「王子イーグル」結成
- 1931年** 全道大会で優勝、同好会から「王子製紙アイスホッケー部」に昇格
- 1935年** ガルミッシュ・パルテンキルヘンオリンピックに初参加（王子から4名参加）
- 2008年** 「王子イーグルス」へチーム名を変更、アジアリーグ初優勝
- 2021年** クラブチーム化し「レッドイーグルス北海道」として始動

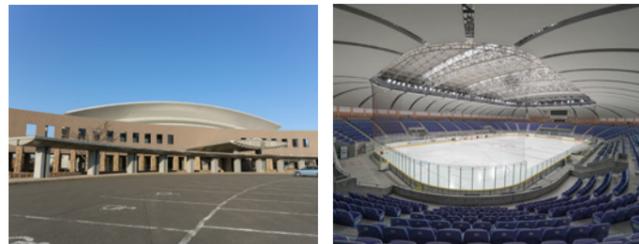
優勝記録

- 全日本選手権 37回
- 日本リーグ 13回
- アジアリーグ 2回
- ジャパンカップ 3回

ホームリンク

白鳥王子アイスアリーナ

(収容人数 3015名、開業1996年。2023年7月より『nepiaアイスアリーナ』に改称予定)



公式キャラクター 鷲斗



祝 辞

日本アイスホッケー連盟 強化本部長

ほんま さだき
本間 貞樹 さん

1953年北海道釧路市出身・70歳。1972年王子製紙入社。1984年には前人未到の200得点を上げ、1989年の引退までの現役17シーズンで日本選手権を11回制するなど、常勝王子アイスホッケー部の中核選手として活躍。日本代表としては1976年インスブルックオリンピック、1980年レークプラシッドオリンピック、アイスホッケー世界選手権に13回出場。また、王子製紙アイスホッケー部（2008年より王子イーグルス）の強化部長として2008年、2012年にチームを日本選手権優勝に導いた。



私が入社したころのアイスホッケー部は、まさに戦う集団。常に勝たなければいけないというプレッシャーを受けながらも、地域が一体となって応援してくれる、とても恵まれた環境でした。忘れられないのは監督としてチームを率いた1990年。その年からプレーオフ制が導入された日本リーグで、追い込まれながらも逆転優勝できたことです。あの試合は本当に興奮しました。

私が現役17年、コーチ1年、監督4年の王子アイスホッケー部生活で学んだのは『役割の大事さ』です。自分のポジションの役割をきちんと把握して責任を果たす。そして助け合う。これは職場組織においても全く同じことだと思います。そして、150周年を迎えた王子グループは、大きな社会的役割を担っています。これからも世界に認められる企業グループとして、存在価値を高めていってください。

そして、レッドイーグルスには日本を代表するチームとして、地域が応援したくなる存在になってほしい。私も、そのつなぎ役を務めていきます。アイスホッケーは、試合を目で追うには速すぎる競技。醍醐味はチームの動きを予測するところで、これができるようになると面白さが断然変わります。ぜひ、リンクに足を運び多くの試合を楽しんでもらえたらと思います。

関西大学 高槻キャンパスオフィス

すずきのりお
鈴木 宣夫 さん

1964年北海道釧路市出身・58歳。1983年王子製紙入社。1年目から試合に出場し、4年目史上最年少21歳で日本リーグMVPを獲得。1999年の現役引退までに MVP：3回、ベスト6：8回、得点王：1回、アシスト王：4回、ポイント王：4回。1988年、1992年、1994年とオリンピック予選に3回出場。2007年王子製紙退社。



強いチームに入って、日本代表選手になって、オリンピックに出場したいという一心で王子製紙への入社を決めました。当時の王子製紙アイスホッケー部は常勝チーム（1980～1996年の17年間で13回日本選手権を制覇）で勝つのが当然といった雰囲気。優勝してうれしかったという記憶がほとんどないくらいで、覚えていることといえば、練習がすごく厳しくて、毎日毎日走ったことです。高校を卒業したばかりのまだ子どもに、それこそ挨拶から布団のたたみ方まで、何から何まで社会人としての教育をしてもらいました。この歴史ある会社に身を置くことができ、ホッケーや業務を通じて多くの人とのつながりの大切さを教えてもらったこと……本当に感謝しかありません。王子あつての自分だと思っています。

スポーツに限ったことではありませんが、何においてもプロセスが大切。それも、毎日同じことをやり続けることがとても重要で、いたずらに刺激を求めず、平凡な毎日と向き合いながらメンタルの強さを養う。そうして、この150年の歴史を受け継いで、業界No.1の地位をさらに高めてほしいと思います。

日本アイスホッケー連盟

やまなか たけし
山中 武司 さん

1971年北海道苫小牧市出身・52歳。1989年王子製紙入社。1992年からの全日本選手権5連覇に貢献。1996年、1997年アイスホッケー世界選手権、長野オリンピックなど日本代表としても活躍。2002年に現役引退、2007～2009年コーチ、2010～2014年監督。2014年王子製紙退社。2016年アイスホッケー女子日本代表監督、現在日本アイスホッケー連盟強化委員を務める。



150周年、心よりお祝い申し上げます。私も、この歴史ある会社の一員であったことをあらためて誇りに感じています。

18～31歳までは選手として、その後コーチ、監督としてアイスホッケー部に在籍していました。選手当時のホッケー部は本当に厳しく、辞めたいと思うこともありましたが、長年の夢だった日本代表に選ばれ、世界選手権や長野オリンピックへも出場することもできました。そして、こうして現在もホッケーに関わっているのは、王子に育てていただいたからにほかなりません。また、現役を引退した後、コーチになるまでの5年間ほど苫小牧工場で経理業務に従事した際には、勝手のわからない私を上司や仲間たちが親身になって支えてくれました。王子の人間関係に助けられ、職場のあたたかさにも育てていただきました。

私は、こうした王子の社風とも言うべきところが大好きです。これから先、ビジネスにおいて“変わっていくこと”はとても大切ですが、“変えてはいけないもの”も大切にしてほしい。そうして、強みをさらに強め、ますます世界で活躍されることを期待しています。